

事業全体の実績	
	<p>①平成18年度から平成20年度にかけて、ロールプレイ型外来診療体験ソフト「患者百選」の拡大と充実を行った。</p> <p>②平成18年度から平成20年度にかけて、ロールプレイ講習会・講演会を開催した。</p> <p>③平成18年度から平成20年度にかけて、ロールプレイ臨床実習とTDM体験実習を開催した。</p> <p>④平成19年度から平成20年度にかけて、薬学生と現場薬剤師による共同研究(学会発表と論文作成)を行った。</p> <p>⑤最終年度である平成20年度に事業成果報告会を行い、事業成果報告書を配布した。</p>
事業に係る具体的な成果	
	<p>①<u>ロールプレイ型外来診療体験ソフト「患者百選」の拡大と充実</u> ロールプレイ型外来診療体験ソフトの充実を目的として、「患者百選」作成のため外来患者情報を収集し、有用な症例を選択後、評価・解説を追加することで「患者百選」を充実した。Web学習(インターネット利用自宅学習)用にロールプレイ型外来診療体験ソフト「患者百選(プライマリ・ケア版)」を作成し、使用ライセンスを各地区に配布した。また、薬学生の臨床系講義に活用した。</p> <p>②<u>ロールプレイ講習会・講演会の開催(延べ参加者8000名の受講者)</u> 講習会テキストは、「症状からみる病態生理」および「臨床薬剤師養成テキスト」を作成した。薬剤師教育講習会の参加者は、各地域で約20~40名を募集し、定期的に開催した。開催場所は、広島県(広島・呉地区、広島北部地区)、山口県(宇部地区、防府地区、徳山地区)、福岡県(福岡地区、北九州市、九州全般)、大分県、大阪府、香川県の11箇所で、年間約100回(計240回)(開催時間は参加者の都合を考慮し、原則19時以降の約2時間)を各地区の病院会議室または公的会場にて開催した。薬学生が講習会に参加することで、実際の薬剤師の抱えている問題点を肌で感じることができた。また、テキストは薬学生の臨床系講義に活用した。</p> <p>③<u>ロールプレイ臨床実習およびTDM体験実習の開催</u> 開催回数は年間4回程度(計12回)(参加者:約300名(薬学生と現場薬剤師))を企画した。開催場所は、広島大学および各地区の公的会場にて開催した。開催時間は参加する薬剤師の就業時間の都合を考慮し、休日に開催した。ロールプレイ臨床実習およびTDM体験実習内容は、薬物療法適正化のための体験実習(医薬品の崩壊・溶出試験、検体の処理、濃度測定(TDX(EIA)、HPLC、GC-MS測定実習)、PK/PDコンピュータ解析)を薬学生が現場薬剤師を指導する形式で開催し、薬学生が教える側の立場に立ち、医療人および患者指導の経験を疑似体験することで、薬剤師としての自覚を得ることができた。</p> <p>④<u>薬学生と現場薬剤師による共同研究(学会発表と論文作成)</u> ロールプレイ講習会・講演会の開催およびロールプレイ臨床実習およびTDM体験実習に参加した現場薬剤師が医療現場で生じる研究テーマを持ち込み、薬学生と共同研究を行った。研究成果の出たものを学会で発表し、広く社会にその成果を報告した。さらに、学術雑誌に投稿し、広く社会にその研究成果を公開し、医療現場で活用することができ、医療の質の向上に寄与した。</p> <p>1. 薬学生と現場薬剤師の共同研究の学会発表(共同研究発表:9回)</p> <p>1) 第46回 日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 2) 第40回 日本薬剤師学術大会 3) 第50回 日本病院・地域精神医学会 4) 第28回 日本臨床薬理学会年会 5) 第38回 日本臨床精神神経薬理学会年会 6) 第18回 日本医療薬学会年会 計6回の年会および学術大会延べ9回の学会発表を行った。</p> <p>2. 薬学生と現場薬剤師の共同研究の論文発表(6論文:共同研究報告)</p> <p>1) 日本病院薬剤師会雑誌(2007)43:1394-1396. 2) Jpn J TDM (2007)24:170-174. 3) Jpn J TDM (2007)24:179-184. 4) TDM 研究(2007)24:185-192. 5) 日本病院薬剤師会雑誌(2008)44:1083-1085. 6) J Infect Chemother(2008)14:110-116. 学術雑誌に計6報の研究論文が掲載された。</p> <p>⑤<u>事業成果報告会の開催と事業成果報告書の配布</u> 平成20年11月に開催した事業成果報告会には、約60人の参加者があり、大学関係者のみならず、現場の薬剤師の参加があり、本取り組みに対する質問が多く寄せられた。また、他大学教職員から薬学生と薬剤師の共同研究についても質問があった。事業報告書を配布したので、事業成果報告会の後にも多くの質問・意見がよせられ、今後の事業の更なる発展のための材料となった。</p>

自 己 評 価

広島大学では、定期的な GP 報告会を開催し、その場で状況報告を行い、大学は取組の進捗状況を的確に把握し、適切なアドバイスを提案すると共に、他の GP で行われている取組を参考にすることを設定したことで、全体の実施状況が十分に把握できた。本取組における薬学生および現場薬剤師における実地報告およびアンケート調査結果では、薬学生と薬剤師の評価は共に高く、取組の継続実施を希望する者が 90%以上を占めた。本アンケート結果は、第 18 回日本医療薬学会年会で薬学生の代表が発表を行った。取組終了後も臨床研究は、継続して実施されている。

薬学生における臨床薬学教育では、実体験に基づく教育教材が完成したことで、6 年制薬学教育の体制作りの素地ができた。さらに、薬学生と現場薬剤師が共同で研究を行う体制が構築され、学会発表や論文作成に共同で係わることで、薬学生の研究意欲が高まり、薬剤師としての将来像を具体的に感じることができ、高度医療従事者養成という人材育成にも寄与した。

財 政 支 援 期 間 終 了 後 の 展 開

山口県防府薬剤師会および香川県病院薬剤師会から継続連携を要望され、同様のプログラムを継続して実施している。その他、広島、岡山、山口、福岡、大分、沖縄県の参加薬剤師有志の自主運営による事業の継続希望があり、九州、中国、四国地区において自主運営体制で本事業を継続して実施している。

薬学生と現場薬剤師が共同で研究を行う体制が構築され、学会発表や論文作成に共同で係わることで、薬学生の研究意欲が高まり、薬剤師としての将来像を具体的に感じることができ、高度医療従事者養成という人材育成にも寄与できている。薬学生と現場薬剤師の共同研究の成果を、平成 22 年 9 月に鹿児島市で行われた第 4 回日本緩和医療薬学会において発表した。その結果、薬学生と現場薬剤師による共同研究に基づいた薬学 4 年生の発表内容が「優秀発表賞」に選定された。以上の結果より、日本緩和医療薬学会を通じ、現場薬剤師とそれを目指す薬学生が共同作業を経験するという本取り組みの成果が高く評価された。

新規に構築された本取り組みのような臨床薬学教育体制が、局地的な生涯教育に限定されることなく、全国の薬学部を持つ大学と職能団体である薬剤師会や病院薬剤師会および学術団体である医療薬学会や日本緩和医療薬学会の相互協力の下、専門薬剤師育成のための礎となるように発展させる必要があると考えている。